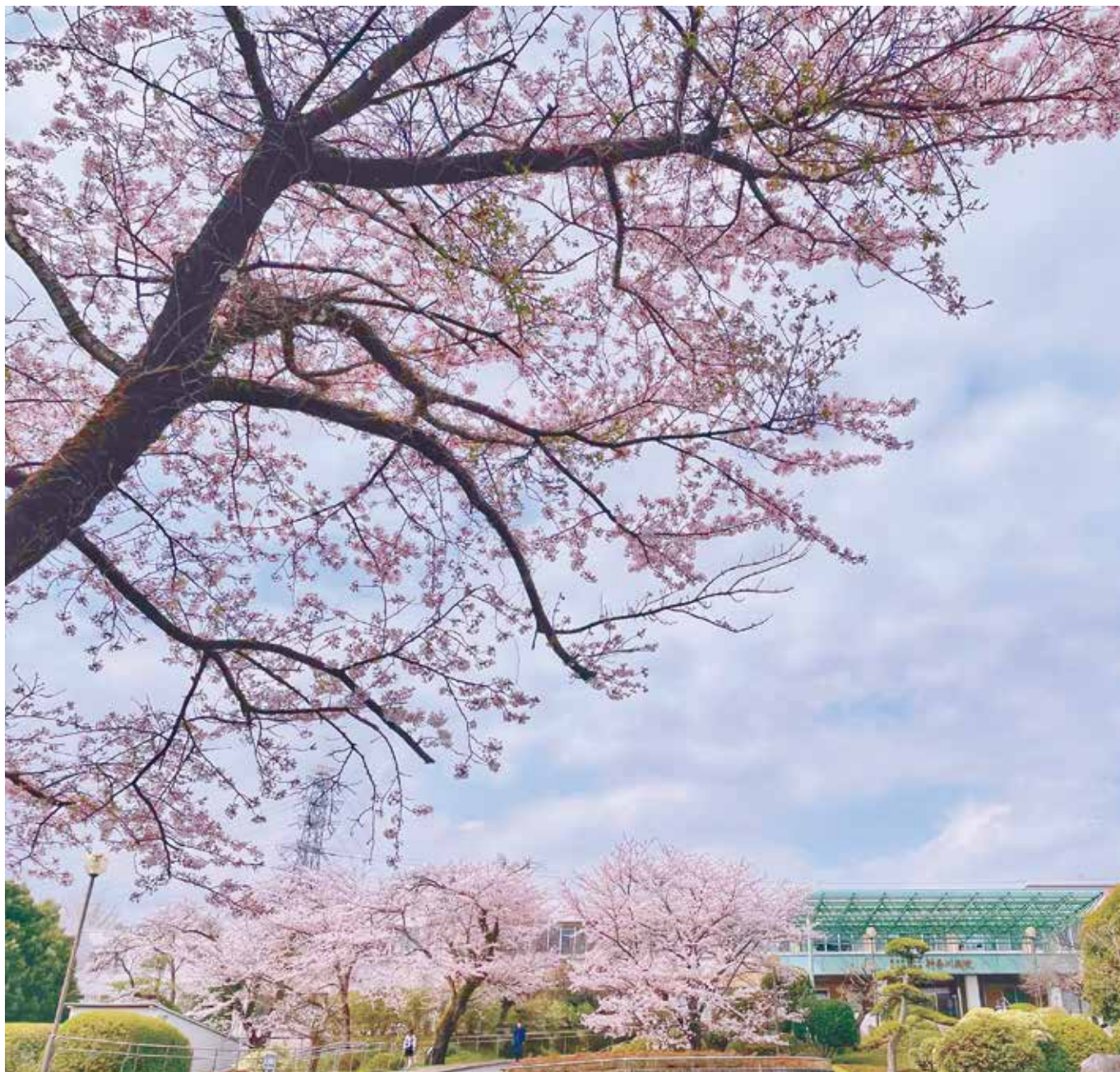


神奈川病院だより

基本理念 私たちは地域の皆様から信頼される病院づくりに努め常に新しく良質な医療の提供をします



神奈川病院の空へ桜風

第73号 目次

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| ○退任にあたり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 | ○地域包括医療病棟での管理栄養士の役割・・ 5 |
| ○国立病院機構 神奈川病院を退職するにあたって・・ 2 | ○市民公開講座『楽しく学ぼう腰痛体操!!』・・ 6 |
| ○着任挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 | ○地域医療機関紹介・・・・・・・・・・ 7 |
| ○地域包括医療病棟を開始いたしました・・ 4 | ○各科診療担当表・・・・・・・・・・ 8 |

退任にあたり

外来診療部長 齋藤 良一

神奈川病院に赴任してから19年経ちました。この度、定年退職します。神奈川病院は素晴らしい自然に囲まれスタッフ同士の連携も良く、働きやすい病院でした。これまでの勤務の中で最も長く勤めた病院です。

振り返りますと赴任当初は脳神経外科がまだ開設されたばかりでしたので、まずは手術ができるように顕微鏡を導入して整備し、救急部を開設して救急患者さんに迅速に対応できるようにしました。病院スタッフ、救急隊員の方々のご協力もあり徐々に救急車搬入数は増え、最近では年間1300台を超えるようになりました。また湘南地区メディカルコントロール協議会に参加し、湘南地区における脳卒中傷病者を判別する湘南病院前脳卒中スケール(SPSS)を策定したり、秦野消防署にご尽力いただき脳卒中の発生状況や脳卒中病型について調査することもできました。長かったようにも、あっという間であったようにも感じられる充実した19年間でした。

退任後は新百合ヶ丘の介護老人保健施設に勤務し、市内の診療所のお手伝いもします。これまで多くの方々に支えられ仕事に専念できました事に大変感謝しております。



国立病院機構 神奈川病院を退職するにあたって

外科医長 前田 裕次

私は東海大学医学部付属病院から独立行政法人国立病院機構神奈川病院に2011年4月1日付で着任致しました。当初は神奈川病院というと山奥にある結核療養所という印象が強くてやや暗いイメージがありましたが、いざ来てみると非常に自然豊かで明るく、解放感いっぱいの病院でとても安堵したことが思い出されます。ただ、建造物はかなりの年代物で冬はとにかく廊下が寒くて(一部今もですが)、病棟まで歩いていくのがつらかった記憶があります。そんな古い一般病棟も2021年3月21日に新病棟が開棟され、見違えるようになりました。

このように病院も新しく変わっていくなかで、この14年で様々なこともありました。2014年の御嶽山の噴火、2016年の熊本地震、2020年には新型コロナ感染の拡大にて緊急事態宣言が発令されるなど災害もいくつかありました。とりわけ新型コロナ感染拡大により私のライフワークともいえる「飲みニケーション」の代表的な歓送迎会や忘年会等の飲み会が全く行われなくなったことが大変ショックでした。このような会がなくなったことだけが原因ではないと思いますが、やはり近年早期離職する職員もちらほらみられており、これは職場での人間関係の希薄化が原因ではないかと思っています。この人間関係を良好にするためにはやはり「飲みニケーション」！が必要なのです。

私が愛してやまないこの病院が今後も発展し最良の医療を提供するためには、まずは職員全員が様々な価値観を尊重しながらコミュニケーションを取り(程よい距離感も必要ではありますが)、良好な職場の人間関係を構築することが重要であると思っています。

病院を退職するにあたり、今後神奈川病院がさらに発展することを切に願っております。



着任挨拶

看護部長 近藤 智美

4月1日付で看護部長として着任いたしました近藤智美と申します。こちらに来るまでは行政の仕事にも携わらせていただきましたので、これまでの経験を活かしてまいりたいと思っております。

今回、秦野市の病院に勤務することを知り合いに話すと、「丹沢」「大山」「ヤビツ峠」と神奈川以外に住まいがある複数の方から言われました。多くの人が秦野の豊かな自然を知っている素晴らしい場所だと思い楽しみにまいりました。実際、山や花の景色はとても素晴らしく、これから四季それぞれの自然を感じられることを楽しみにしております。

当院は令和6年10月に地域包括医療病棟を立ち上げました。こちらの病棟は、救急車などで来院された入院が必要な地域の患者さんが、早期に安心して自宅へ帰れるよう多職種チームでケアをする病棟です。まだ、立ち上げたばかりの病棟ですが、地域のみなさまに求められる病院となれるよう頑張っております。そして、患者さんの一番近くにいる看護師がチームの中で役割を果たせるよう、患者さんの立場に立ち人権を尊重し看護の専門職として信頼されるあたたかい看護を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

企画課長 平林 龍馬

4月1日付で事務部企画課長として着任いたしました、平林龍馬と申します。

平成元年に旧国立療養所新潟病院で採用となり、新潟県2施設、東京都4施設、埼玉県1施設、長野県2施設、千葉県1施設と5都県10施設で業務に就いてきましたが、神奈川県は初めてとなります。

秦野市は湧水が多いとのこと、湧水巡りを行いたいと思っています。市役所で湧水マップもいただきました。

業務に関しては、今までの施設において一通りこなしてまいりましたが、神奈川病院では、もっとも難しいと感じている契約業務の統括となりますので、精一杯頑張っていきたいと思っております。

得意分野としてはEXCELマクロを使用した業務のオートメーション化となります。何度も同様の作業を行っている業務がありましたら、マクロを作成いたしますので、何なりとご相談いただければ幸いです（パソコン好きのおじさんレベルですが・・・）。

経営企画室長 寺澤 崇平

春風が心地よい季節となり、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。ここ神奈川病院周辺では、桜の花が満開に咲き誇り、自然の美しさを感じることができる素晴らしい時期となりました。

令和7年4月より、国立病院機構箱根病院から転任して参りました、経営企画室長の寺澤崇平と申します。この度、地域に根ざした医療を提供する神奈川病院に迎えていただき、大変光栄に思っております。

神奈川病院は、地域の皆様にとって欠かせない医療機関であり、私もその一員として「そらいろの病院」に相応しい、より明るく、開かれた医療環境の提供を目指します。これまで得た経験を活かして、医療の質向上や業務効率化に向けて、経営面でもしっかりとサポート体制を構築して、青空のように広がる、地域とのつながりを大切に、皆様の健康を支えるために力を尽くしてまいります。

地域包括医療病棟を開始いたしました



皆様はADLという言葉をご存じでしょうか？直訳すると『日常生活動作』となります。トイレに行ったり階段を上ったりなど、自分の身の回りのことを自分で行うことです。

急に入院してしまいベッドの上ですずっと安静にしていると、筋肉が落ちてしまって病気は治っても自分のことが自分で出来なくなってしまう事が残念ながらあります。

このような事態を避けるため、救急で入院することになった患者様を受け入れ、病気の治療だけでなくADLも低下しないような看護ケアや身体を動かすりハビリテーション、健康を保つための栄養管理も行い、健康に退院が出来るよう診療を行う『地域包括医療病棟』を昨年10月より開始しております。

現在どのような患者様を受け入れているのか、病床管理支援担当渡邊看護師長に話を聞きました。

「入院してくる患者様は平均で週12人程度いらっしゃいますがそのうちの約半数が救急車で搬送されてくる方で、秦野市や近隣市外の高齢者の方が多いです。」とのこと、病状でいうと内科系の患者様は肺炎・脱水、外科系の患者様は整形外科疾患で搬送される方が多いです。



救急で入院される方は残念ながらその時点でADLが低下している場合が多く、この方々のADLをどのように回復して退院を目指すのか。

「骨折で入院された場合は早期にリハビリを開始しています。」地域医療包括病棟の中田看護師長はこのように話します。「何がどこまで出来るようになればまた自宅へ退院することが出来るのか、皆でカンファレンスを常に行い話し合っています。」

ご家族の方にリハビリの様子を見学してもらい独りでどれだけ動けるのか、退院後のイメージを考えてもらうことも重要だそうです。

「出来るだけ自宅へ退院が出来るよう入院早期から医師、理学療法士、管理栄養士、MSW、皆で連携して今後も取り組んでいきたい。」中田看護師長はこのように話していました。

当院の地域包括医療病棟では、外科や内科的治療で入院された患者さんに対し、退院後もADLを維持できるようにリハビリテーションを行いながら栄養管理もしっかりと行っております。

管理栄養士が専任配置となり、世界の主要な栄養学会が作成した「GLIM（グリム）基準」を用いて低栄養診断を行わなければなりません。GLIM基準の評価項目には、体重減少や食事摂取量の減少、BMI（体格指数）、下腿周囲長（ふくらはぎの太さ）などが含まれており、低栄養リスクのある患者さんが迅速で正確に把握できます。

管理栄養士の役割は、特に低栄養リスクのある患者さんに食事調整や栄養食事指導などの栄養管理を入院時から行うことです。骨折により寝たきりの状態でも食事が食べられるように可能な範囲で食事内容を調整するなど、入院時より食事調整などを行うことで、より一人ひとりの環境にあった食事提供や術後のADLの改善の手助けなどができます。食事をしっかりと食べ、リハビリテーションを行うことで自宅退院への後押しができていていると思っています。



今までは、管理栄養士それぞれの経験則に基づいた優先順位での栄養管理となることが多かったですが、GLIM基準のように客観的な評価ができるツールを用いることで、よりわかりやすくなり、経験の少ない管理栄養士でも正しい評価と介入が行えるようになったと思います。また、様々な患者さんをみていく中で、疾患ごとの栄養状態の変化の予測などもよりし易くなったと感じています。標準的なツールを用いることで、一人ひとりにより良い栄養管理が行えるよう日々努めています。

市民公開講座『楽しく学ぼう腰痛体操!!』



令和7年2月20日に市民公開講座に実施したところ83名の方にご出席いただきました。参加下さった皆様ありがとうございました。事前の申し込みを多数いただき定員を超えてしまったため、その後の申し込みはお断りすることになってしまいました。参加出来なかった皆様申し訳ございません。

今回は腰痛をテーマにした講座で、小町利治理学療法士長が前半は講義、後半は実演を交え話をいたしました。

腰痛に効く体操を全部で9種類、ご紹介したのですが、そのなかの一つをご紹介します。

仰向けの状態から、片方のひざを抱えて体に近づけるように曲げます。このとき、反対側の脚がなるべく床から浮かないよう気をつけます。左右交互に行います。（左右とも10秒間×2回）



目的 脚のつけ根（腸腰筋・臀筋など）を柔軟にします。

これ以外にも全部で3つのストレッチを3人の方にその場で体験していただきました。

実演には理学療法士が一人ずつ付き添い、まず痛みを感じない程度を確認しながらストレッチを行いました。

参加いただいた方のうちお一人にお話を伺ったところ、今年になってから歩くと痛みを感じるようになり整形外科に通い出したとのこと、そのため講座に参加して下さったとのことでした。当院は受診したことがないとのことでしたが講座に来て下さり有り難うございました。

4月以降も市民公開講座を実施する予定にしております。是非皆様の参加をお待ちしております。



※御本人様より掲載の許可を
いただいております

本町地域高齢者支援センター

管理者 佐藤 雅美

住所 〒257-0035 神奈川県秦野市本町3-9-43

Tel : 0463-75-8907 Fax : 0463-85-5757



市内の本町地区を管轄している本町地域高齢者支援センターは平成18年から設立し、県営秦野団地の近くに事務所を構えています。ご相談に立ち寄られる方も多くありますが、電話等で連絡を受け、暮らしの場に出向いており、地域内を自転車や車で日々走り回っています。

「こんなこと、どこに尋ねたら・・・？」

介護保険の相談対応だけでなく、支援センターは「総合相談機能」をもち、「相談」となる一歩手前の「困りごとのつぶやき」時点からあらゆる場面で住民の声をキャッチし、話を伺い一緒に対応策を考える活動をしています。

令和7年1月末現在で本町地区の全高齢者数は7,685人(高齢化率32%)、増加の一途です。高齢期の暮らしの課題も年々多様化・重層化しています。

支援センターは行政や各種機能・機関とタッグを組み、将来にわたり人々が高齢期になっても少しでも長く暮らし慣れた地域内で暮らし続けられる体制が作れたらと日々活動していきます。



各科診療担当医表

令和7年6月1日現在

科別		曜日	月	火	水	木	金
一般外来	内科	総合内科	小林(康) 再診のみ 中村	荒木	大和田	沖	小林(康)
		消化器内科	後町		【予】中島 (13:30~)	後町	
		糖尿病内科					小塚 (13:30~)
		循環器内科	内田	吉田 (9:00~) 藤井	松崎(秀)	森木 塩崎 (9:00~) 内田 【再予】	森木
		呼吸器内科	大久保 浅野 (9:30~)	河合 田中	西川 (9:30~)	布施川 荒木	大久保 浦野 (9:30~)
		神経内科		【予】大貫 (14:30~)			
	外科	脳神経外科	石原 (10:00~15:00) 【第1のみ】		小杉 (9:30~)		
		外科				【予】櫻井 (13:00~)	鈴木(俊)
		消化器外科					
		呼吸器外科		増田	杉浦	藤本	
		整形外科	山本(宗)	山本(宗) 【装具外来】	野尻 (9:00~)	渡辺(隆) (9:00~)	内野 (9:30~)
		泌尿器科	浅沼				田野口
	皮膚科			岩崎 (9:15~)		堀川 (9:15~)	

科別		曜日	月	火	水	木	金
一般外来系	小児科	小児科	萬木(晋) 石井 (9:00~)	萬木(暁) (9:00~)	佐藤(ひ)	伊藤(直) (9:00~)	萬木(晋)
		小児アレルギー科	[予]渡辺(博) (14:00~)	[予]萬木(晋) (13:30~)	渡辺(博) (9:00~)	渡辺(博) (9:00~)	石井 (9:00~)
			[予]佐藤(ひ) (14:30~) 【第2のみ 15:00~】		[予]萬木(暁) (13:30~)	予防接種 (第2・ 第4のみ)	
	小児外科 【第1、3のみ】				[予]平川 (13:30~)		
	心療内科			[予]松崎(淳) (9:00~) 【第1のみ】			
	特殊外来	てんかん外来 【第3のみ】				[予]杉山 (10:00 ~11:00) 【第3のみ】	
睡眠時無呼吸 外 来			[予]荒木 (13:00~) 再診のみ				
救命救急科				青木	足立		
透 析 室						山 内 (13:00) 【第1・3のみ】	

【担当医表の表記について】

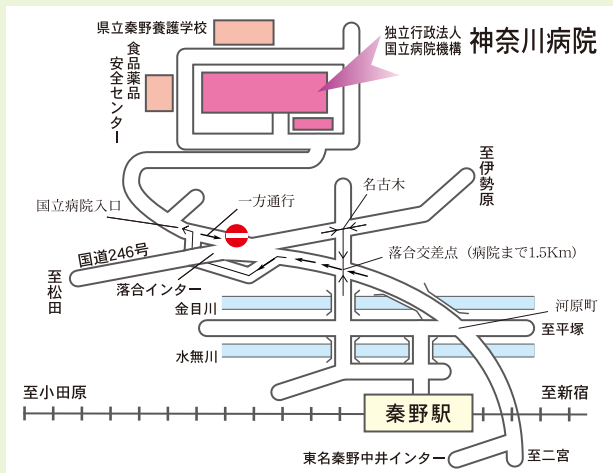
- ①括弧書き(: ~)
…診察(開始)時間
- ②【〇〇のみ】…特定の診察日
- ③【予】…予約制



※担当医表に時間の記載がある日は、記載されている時間内の診療となりますのでご確認をお願いいたします。

発行責任者：中村 守男 編集：広報委員会

案内図



小田急線「秦野駅」下車神奈川中バス④番乗場「国立神奈川病院」行
終点(所要時間約13分)

※車利用
東名高速道路「秦野中井」より約10分
◎矢印の方向へお進み下さい。●は進入出来ません。



◆広報誌については是非御意見をお聞かせ下さい



*御意見に対して直接の御返事はいたしません。
予めご了承下さい。

独立行政法人 神奈川病院
国立病院機構

〒257-8585 神奈川県秦野市落合666-1
TEL 0463-81-1771 FAX 0463-82-7533
URL <https://kanagawa.hosp.go.jp>